

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

まつばらたんりょう だったんじんしゅりょう ずびょうぶ  
松原探梁「韃靼人狩猟図屏風」

仙台市博物館 学芸企画室 寺澤 慎吾

第11回

今回は、江戸時代中期に仙台藩のお抱え絵師として活躍した松原探梁の「韃靼人狩猟図屏風」を紹介します。

韃靼人狩猟図とは

まずは全体を眺めてみましょう。山や岩場、水場などのある自然景のなかで、ウマに乗った人々がさまざまな動物たちを狩る場面が描かれています。本図右隻では、四方からトラを追いついて狩る場面を中心に、クマやイノシシ、シカ、ツルなど、多くの動物が追われています。一方、左隻は、大部分がタカを用いた鷹狩りの場面、そのほかにツルやガンなどを射る人々も描かれます。

本図の中で目を引くのは、狩りをする人々の服装でしょう。羽根の付いた帽子をかぶり、ひげを生やして、赤や青の地に金の細かい文様が施された鮮やかな服をまとっています。日本とは大きく異なる風俗のこれらの人々は、「韃靼人」と呼ばれます。韃靼人とは、モンゴル高原東部の遊牧民を指す中国での呼称で、本図では、韃靼人が得意とした狩猟風景が描かれています。このような勇ましい狩猟図は武家で好まれた画題で、本図も仙台伊達家に伝わった作品でした。

生き生きとした描写

本図の中で、私の好きな場面を挙げましょう。いずれも臨場感や躍動感のある生き生きとした描写です。

一つは、ウマを駆けながら射た獲物を確保しようとする場面（図1）。まるで曲芸のようにウマの背から大きく身を乗り出して獲物に手を伸ばしています。もう一つは、馬上で両手を挙げて待ち構える人物（図2）。この人物の上方では、タカがツルを捕らえており、喜んでツルを受け止めようとする場面でしょう。思わず両手を挙げてしまったためか、ウマが驚いて立ち上がりうろたえています。

こうした描写のほかにも、狩りを尻目に、柿を食べているサルたちや、そと川辺で憩うトラなど、ほほえましい動物たちの姿も描かれています。当館の収蔵資料データベースには、本図の部分図も一部掲載していますので、ぜひご覧ください。



図2 左隻部分



図1 右隻部分



左隻



右隻

韃靼人狩猟図屏風 松原探梁筆 江戸時代中期 仙台市博物館蔵

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」(二次元コード)からご覧いただけます。



\\ 新発売 //

『仙台藩主 ポケットガイド』

仙台藩の初代伊達政宗から13代慶邦までの藩主たちの藩政・家族・趣味などをわかりやすく紹介！藩主それぞれの肖像画や具足、直筆の手紙や絵画などの写真も多数掲載しています。

A5判/64ページ/オールカラー 700円(税込)



お求めはこちら

仙台市博物館 ミュージアムショップ

【場所】仙台市博物館2階

【営業時間】9:00~16:45

【電話番号】022-226-8319

市政情報センター

【場所】仙台市役所2階

【開館時間】9:00~17:00

(土・日・祝・毎月第4水曜日 休)

【電話番号】022-214-1239



購入方法などは、博物館ホームページでご案内しています



【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)

【休館日】毎週月曜日、祝日・振替休日の翌日

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074

▶博物館ホームページ

仙台市博物館

検索

▶博物館X(旧ツイッター)

@sendai\_shihaku